

「海遍路」を実施中。

◎現在、日本全国の漁村を訪問し漁師に話を聞く

主催:鹿児島大学附属図書館 お問合せ先:海遍路事務局 2099-281-2387 迄

Great Seaman Project

共催·企画:NPO法人 海遍路



## 海遍路は2015年春、有明海を巡る!

NPO法人海遍路 公式サイト→



手漕ぎのカヤックに生活道具一式を積みこみ、海辺の漁師町を訪れる「海遍路」。

2011年~2013年、延べ51日間をかけて「四国一周海遍路」を完結。

2014年5月には、「海遍路・東北編」を実施し、宮城県の漁村11か所を訪れ漁師から話を聞いた。「津波

によって、海が浄化された。」「震災前も後も、海に変わりはない。 津波も自然の一つの現象だ。」「太平洋は我々にとっては「太平洋 銀行」で、その利子で食べさせてもらっている。」自然の恵みと畏 怖を知る人々の、くもりのない凄みのある言葉だ。

2015年春は、問題を抱えつつ日本一の干潟が広がる有明海を予定。



## なぜ、カヤックで旅をするのか?

1~3人乗りのカヤックで旅をする。波にあおら

れ、風に翻弄される。自然を実感しながら海から訪れた我々と、 海を知り尽くした漁師との垣根が、瞬時に取り払われるのだ。そこ から本音の会話が始まる。「海抜ゼロ」の視点から海辺を見つめ、 地域で頑張る人々を、地域から地域へと繋いで行くことを目指す。



## **Great Seaman Project**

~偉大なる海人達を訪ねて 一万キロの人力航海~

八幡時小井サイト-







世界最大の島嶼海域であり、情報が少ない海域であるオーストラリアから日本までの海。スンダランドと呼ばれた大陸からの人の拡散のルートは、日本にも通じているのであれば、そこに生きる人々の暮らしは、今の日本人の海の暮らしとも通ずるものがあるのではないか、と計画を立てる。当初、人力のカヤックでオーストラリアから日本まで漕ぐことは無謀、と評されるもの、2002年スタート。オーストラリアからニューギニア島へ渡ることを狙った一回目は、相棒と2人でスタートの挑戦だったものの、いきなりカヤックも含め全財産を海で喪失し、あえなく帰国。結果的に、2年目から単独行となる。つまり単独行、無伴走というような記録を狙っていたわけではないことがうかがえる。全行程1万キロほどの中で予想される難しい海域ベスト5は既に終え、残すところ2000kmとなっている。本人曰く、この挑戦は、昔の人がやっていたことを追随体験をしているだけで冒険家と呼ばれるようなことは一つもなく、むしろ探検や文化人類学の要素が強い。

主催: 鹿児島大学附属図書館 共催・企画: NPO法人 海遍路